

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【穀物、東海農政局】

岐阜県 JAにしみの（強い農業・担い手づくり総合支援交付金：R3）

- 老朽化した5か所のカントリーエレベーター等を再編集約し、地域の基幹施設を新設。施設の運営コストの低減及び利用率の向上を図る。
- 乾燥調製機能の向上により、地域情勢に合わせた担い手への集積・集約化を後押しするとともに、担い手の収益性向上に寄与。

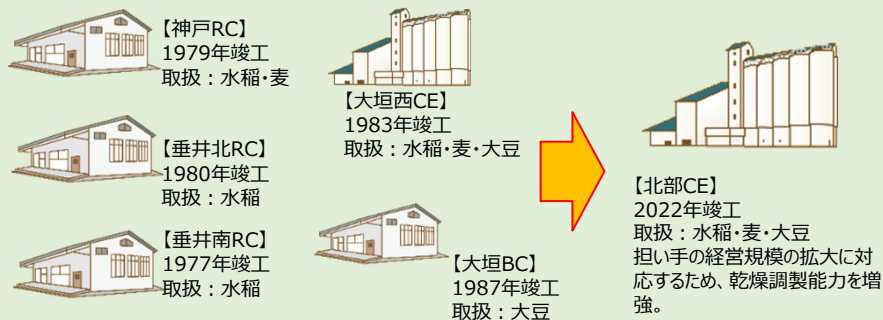
現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- カントリーエレベーター・ライスセンター等は、設置してから**33年以上が経過**し、施設能力と稼働実態に乖離が生じるとともに、**老朽化に伴い、施設ごとの修繕費用が増大。費用負担の増大が課題**となっていた。

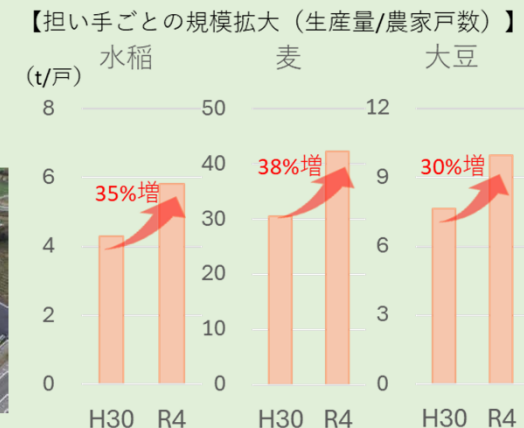
【再編集約の内容】

- 老朽化した5か所の共同利用施設を再編集約し、地域の基幹施設を新設し、施設の運営コストの低減及び利用率の向上を図る。



再編集約・合理化等で期待される効果

- 乾燥調製機能の向上により、地域情勢に合わせた担い手への集積・集約化を後押しするとともに、担い手の収益性向上に寄与。
- 共同利用施設の利用割合を高めることで、担い手の経営面積拡大、設備投資負担の抑制に寄与。
- 担い手の省力化を図るため、**スマート農業機器の導入を推進。**



他産地へのメッセージ

- 本事例は、既存施設を再編集約し、基幹施設を新設することで、**大規模経営化する担い手等の利便性が向上し、あわせて機能向上により施設の運営体制の効率化を実現。**
- 垂井町、神戸町の生産者に対して、旧施設で荷受中継（穀物コンテナを中継輸送）することにより利便性を確保し、合意形成を図った。